

秘

參一發第八十八號

大正八年七月三十一日

參謀總長

通報

第五師團ヲ露領ニ派遣シ第三師團ト交代セシメラル第
五師團、殘餘ハ八月中旬其衛戍地ヲ出發シテ浦潮ニ輸
送セラレ同月下旬上陸ヲ完結スル豫定ナリ

0834

伊野

編第二十號

歩兵第七十一聯隊同留守隊ノ編成ヲ令セラル編成第

一日ハ八月十二日ナリ

大正八年八月十日午前九時

陸軍大臣 田中義一



海軍大臣 加藤友三郎 殿

軍務局

第

陸軍

8.8.11

0835

編第二十一號

第十六師團輜重監視隊ノ編成ヲ令セラル編成

第一日八月十三日ナリ

大正八年八月十一日午前十一時

陸軍大臣田中義一

海軍大臣加藤友三郎殿



軍務局

供醫

陸軍

0836

張

秘

長

通報

小林

大正八年八月十八日

參謀總長

支那派遣部隊、左記、

如ク交代セラルル

青島守備歩兵第二乃至第四大隊（各本部欠）第一、第五及第十八師團

天津及北京駐屯歩兵隊（各本部欠）第四師團

中支那派遣歩兵第一大隊 第六師團

前記派遣部隊ハ九月止旬支那ニ派遣セラルル豫

定ナリ

軍務局

支那派遣部隊之件

8. 8. 19
官印受領

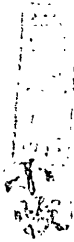
軍務局受
8. 8. 19

0837

軍務局



航空部



供

參一發第八十九號

南部沿海州並第三、第十四師團方面、情況別紙、如シ

通報

大正八年八月二十三日
參謀總長



8. 8. 24

8. 3. 25 官房受領

0838

南部沿海州方面ノ情況

南部沿海州ニ於ケル過激派ノ掃蕩ハ今ヤ第三期計畫實施中ニシテ其目的トスル所ハ各部隊ヲ分散配置シテ第一第二期間森林ニ逃竄セル過激派ヲ先ツ森林内ニ封鎖シ其踪跡ヲ確メ徹底的ノ討滅ヲ圖リ且此間專ラ普傳ヲ行ヒ彼等ノ誤解ヲ解カントスルニ在リ

一 南部討伐隊方面ノ情況

南部討伐隊ハ少佐三浦明ノ指揮スル部隊(歩兵五中隊ヲ基幹トス)ヲ蘇城附近ニ殘置シテ依然該方面ノ掃蕩ヲ繼續セシメ大佐金田房吉ノ指揮スル主力ハ七月下旬アメリカカ邊ヨリ海路浦潮方面ニ輸送セラレ北部討伐隊ノ行動ニ參與シツツアリ

二 北部討伐隊方面ノ情況

北部討伐隊掃蕩部隊ハ其掃蕩地域内ノ諸村落ニ對シ
 第三期討伐ヲ實施シ尙ホ一部隊ヲ以テ遠ク「タバガ」
 河谷(カワヒ)河谷東方約十里ニ挺進掃蕩ヲ行ハレム
 ルト共ニ航空隊ヲ以テ之カ行動ニ協力セシメ著々其
 實績ヲ收メツツアリト雖敵ハ大ナル集團ヲナスニア
 ラス我間隙ヲ窺ヒテ隱現出没掠集等ヲ敢テシ其行動
 實ニ端倪スヘカラサルモノアリ七月二十日以降當方
 面ニ於ケル我損害ハ戦死卒ニ、負傷兵卒約十名ナリトス
 第十四師團方面ノ情況
 第十四師團ハ六月二十九日ヲ以テ第十二師團ト交代シ
 北部沿海州及黑龍州ノ治安維持ニ任レツツアリ
 當方面ニ於ケル過激派ハ小集團ヲ以テ或ハ良民ヲ脅威
 或ハ列車ノ運行ヲ妨害シ時々我守備隊ヲ襲フ等殆ト

寧日ナキノ状況ニ在リ
七月二十五日早朝約二百ノ過激派ハ一部ヲ以テア市東
南方約三十吉米附近ニ於テ我患者車ヲ連繫セル普通列
車ヲ顛覆セルノ之ヲ射撃シ戦死ニ等軍醫松原保外兵卒
六、負傷兵卒九ノ損害ヲ與ヘ主力ハ濃霧ヲ利用シテ、
ルノゴウ驛ヲ掩撃セルモ我守備隊ノ奮闘ニ依リ交戦約
三時間ノ後死體五ヲ遺棄シテドブリヤンカ方面ニ退却
セリ同時會々列車ニ依リ北上セル大尉辻岡三郎ノ指揮
スル部隊ハ、ポリヤーナ南方子米橋梁附近ニ於テ約百名
ヨリ成ル過激派ト遭遇シ交戦約四十分、後之ヲ撃退ス
我損害戦死ニ、負傷五十ナリ
紋上一般ノ状況ニ鑑ミ師團長ハ南北兩討伐隊ヲ以テホ
チカレオ平地ノ掃蕩ヲナスニ決シ南部討伐隊(大佐圓藤

作藏ノ指揮スル歩兵三中隊、野砲兵一中隊、哥薩克一聯隊ヲ基幹トスルモ、ハ七月二十八日以來行動ヲ開始シ、微弱ナル過激派ヲ掃蕩シ、武器ノ押収、普傳ノ實施ニ努メ、五日所期ノ行動ヲ終ヘテ、各守備地ニ歸還セリ、北部討伐隊少將貴志彌次郎ノ指揮スル歩兵二中隊ヲ基幹トシ、且露軍ノ一部ヲ附スルハ、七月三十一日以來其行動ヲ開始シ、三日「パトロフカ」ニ於テ歩兵二百ノ敵ヲ又「ドブリヤンカ」ニ於テ五十ノ敵ヲ驅逐シ、四日「ホウトウカ」ニ於テ若干ノ敵ヲ撃破シ、五日概ネ「ゼーヤ河」ノ線ニ達シ、爾後該河ヲ下航シ、「市」東方地區特ニ「ドブリヤンカ」附近ノ掃蕩ヲ實施セリ、北方面ニ於ケル我損害負傷ニナリ

第三師團方面ノ情況

後貝加爾方面一般ノ情勢ハ表面平靜ヲ保ケツツアルカ

如キモ、ネルチンスキー、ガオードヲ根據トスル過激派ハ
 漸次其勢力ヲ増加シ動モハレハセミヨリ、軍ニモ動
 揺ラ生シアリテ形勢險惡ノ兆ヲ呈シツツアリ
 豫テ、シエロプキヤ、スレテンスク南方附近ニ於テセミヨ
 リノフ過激派討伐軍ト協同作戰シツツアリシ我派遣隊
 ノ騎兵大尉岡田親秀以下三ノ騎ハ八月三日、カウキチヨ
 リ、ウソジンスコエニ前進中約百名ヨリ成ル敵ノ攻撃ヲ
 受ケ戦死三等獸醫新見常次郎外下士二、卒十名負傷准士
 官以下六名ノ損害ヲ受ク
 以上ノ狀況ニ鑑ミ過激派ノ勢力未タ強大ヲ加ハサルニ
 先ク之ヲ鎮壓シ禍根ヲ末然ニ防遏センカ為大佐河西惟
 一ノ指揮スル一支隊ハ八月十日、ネルチンスク、ヲ出發シ
 該地方面ニ行動ヲ開始セリ

參一發第九十號

參一發第九十號

大正八年八月二十六日

參謀總長

派下報

通報



第五師團主力露領到着ノ件



軍務局

露領ニ派遣ヲ命セラタル第五師團ノ主力ハ八月

二十四日ヲ以テ全部露領ニ到着シ浦潮派遣軍司令官ノ

隸下ニ入レリ

軍務局受
8.27

8.27
官廳受領

0845

軍務局

供
秘

大

第一師團ヨリ歩兵一大隊ヲ朝鮮ニ派遣シ曩ニ第
十三師團ヨリ派遣シタル歩兵大隊ト交代セシメラル
前記派遣部隊ハ九月下旬其交代ヲ終了スル筈

通
報

第
二
課

大正八年九月十二日

参謀總長

8.9.12
官局受領

軍務局受

0846

8.9.15

供覽

編第二十二號

小林

步兵第十五旅團、工兵第十三大隊、步兵第十六第三十
聯隊留守隊、工兵第十三大隊留守隊、編成ヲ令セ
ル編成第一日ハ九月十六日ナリ

大正八年九月十五日午後二時

陸軍大臣 田中義一

海軍大臣 加藤友三郎 殿

軍務局



潛水部
航空部



軍務局受

9.16

0847

陸軍

軍務局

濟

水

參一發第九十二號

第五師團方面、情況別紙ノ如シ

通報

航空部

大正八年九月二十日

參謀總長

軍務局受

8.9.22 0848

8.9.21
受領

第五師團方面ノ情況

一、在「スレーテンスク」少佐中村勉作ノ指揮スル部隊(歩兵第七十一聯隊ノ二中隊及機關銃三)ハ九月十一日敵ノ監視線「モロドイ」(「スレーテンスク」東方約六吉米)附近ニ在ルヲ知り十二日中隊長ノ指揮スル歩兵一小隊ヲシテ之ヲ搜索セシメシカ該小隊ハ「モロドイ」西方ニ於テ俄然約一千ノ敵ト衝突シ奮戦激闘ノ後之ヲ後方陣地ニ撃退シ十三日朝「スレーテンスク」ニ歸還セリ我損害戦死五、負傷四十ナリ

二、在「ネルチンスク」ノ一部隊ハ九月十一日「ブシレイ」(「ネルチンスク」東北方約三十里)北方破壊セラレタル橋梁ニ達シ警戒並敵情ノ搜索ニ努メツ、同夜其地ニ宿營セルカ翌十二日早朝ヨリ十數倍ノ敵ノ包圍ヲ受ケ奮戦約三

0849

時間ノ後之ヲ撃退シ同日午後六時「ネルナンスク」ニ歸還セ
リ我損害戦死七、負傷二十六ナリ

0850

出

第一發第九十一號

大正八年九月十六日

參謀總長

8.9.17
官局受領

0851 軍務局受

軍務局

(初)

通牒

第十三師團ヨリ歩兵第十五旅團、工兵第十三大隊ヲ
 露領及北滿洲ニ派遣シ現ニ第十六師團ヨリ露領及北
 滿洲ニ派遣シアル部隊ヲ現所屬ニ復歸セシメラル
 但北滿洲派遣隊(騎兵第二十聯隊第一中隊欠)ハ來春マテ
 其復歸ヲ延期セシメラル
 二新派遣部隊ハ概ネ九月下旬ヨリ十月下旬ニ互リ敦賀
 ヨリ乘船シ浦潮ニ上陸ノ豫定ナリ

第一課

(印)

(印)

(印)

(印)

(13)

軍務局



供
報

秘

通
報

大正八年十月八日

參謀總長

曩ニ朝鮮ニ臨時派遣セラレタル第十三師團ノ歩兵一大
隊ハ新ニ第一師團ヨリ派遣セラレタル臨時朝鮮派遣歩
兵第二大隊ト交代シ十月六日其衛戍地ニ歸還セリ



軍務局受

8.10.9. 0852

8.10.9
領受

軍務局

任
大

大

第五師團討伐經過、概要別紙、如シ

參一發第九十三號

通報

小林

大正八年十月八日

參謀總長

8.10. 9
官爲受領

軍務局發

8.10.9. 0853

第五師團討伐經過ノ概要

第五師團長ハ「ボグダトスカヤ」附近ニ於ケル過激派ノ跳梁ニ鑑ミ「セミヨーノフ」ノ部下露軍ヲ支援シ之ニ一大打撃ヲ與フルニ決シ九月二十日頃ヨリ其行動ヲ開始セリ

一「ボグダトスカヤ」ニ向ッ前進

一) 細野支隊方面

細野支隊(長少將細野辰雄)ハ九月二十五日其東部支援隊(大佐石川忠治)ノ指揮スル歩兵五中隊野砲二門ヲ基幹トス)ヲ以テ「ネルナンスキー、ザラード」附近ニ其西部支援隊(少佐今田莊一)ノ指揮スル歩兵三中隊野砲二門ヲ基幹トス)ヲ以テ「カジムルスキー」附近ニ開進ヲ終ル東部支援隊ノ一部ハ九月二十六日以來「アルグンスカヤ」附近ニ在リシ露軍ヲ支援シ當面敵ヲ撃破シ北方ニ

0854

向ヒ之ヲ追撃中ナルモ其後ノ情況詳カナラス又其主
カハ「ホムヤコフスキ」附近ニ於テ敵ト對峙シアリシ
エメリン少將ノ指揮スル部隊ヲ支援シ漸次之ヲ北方ニ
壓迫シ二十九日「ボグダトスカヤ」ニ前進中數倍ノ敵ノ攻
撃ヲ受ケタルヲ以テ決戦ヲ避ケ同日夕「ホムヤコフスキ」
北方約三里ノ地點ニ後退シ之ヲ死守セリ
西部支援隊ハ途中敵ノ抵抗ヲ受クルコトナク「クリユ
コフスコエ」ヲ經テ北進シ九月二十九日「ゴルブノフスキ」
附近ニ於テ露軍ヲ支援シテ約五百ノ敵ヲ撃破セシモ
損害ヲ蒙ルコトナク續テ三十日「ボグダトスカヤ」ニ向ヒ
前進セリ

(二) 本庄支隊方面

本庄支隊(大佐本庄繁)ノ指揮スル歩兵六中隊山砲二門

ヲ基幹トスハ露軍ノ一部ト共ニ九月二十一日朝「モロ
ド」附近ニ在リシ敵ヲ撃破シタル後「シルカ」河ノ水運
ヲ利用シ「シルキンスキ」附近ニ上陸シ爾後多大ノ辛酸ヲ
冒シテ嶮峻ナル山路ヲ踏破シ二十八日「ガジムル」河谷
ニ於テ約五百ノ敵ヲ撃破シ二十九日「ホグダトスカヤ」ニ
向ヒ前進セリ

(三) 北方退路遮斷

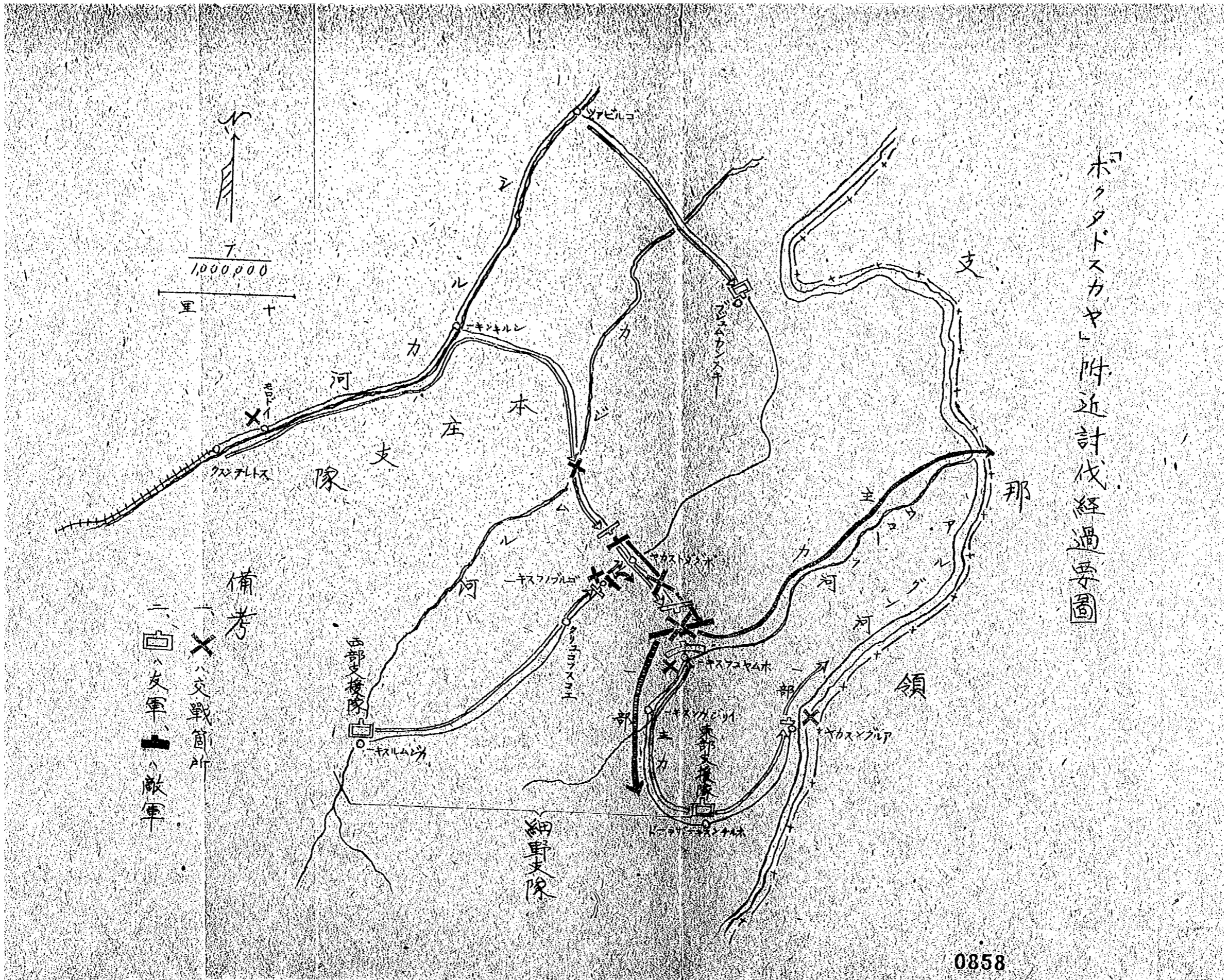
西支隊ノ行動ニ策應スル爲露軍ノ一部ハ「ゴルビツア」ヨ
リ「ブジュムカンスキ」ニ進出シ該地附近ニ於テ敵ノ北方退
路ヲ扼守シアルモ其情況詳カナラス

ニ彼我主力ノ決戦

東部支隊前面ノ敵ハ其兵力約千五百ニシテ二十九日
以來決死正面ニ殺倒シ特ニ三十日夜ノ如キハ数回ノ夜

襲ヲ決行シタルモ我兵奮闘克ク之ヲ支ヘ遂ニ背後ヨリ
進出セシ今田本庄両支隊ト共ニ之ヲ夾撃シテ潰走ニ陥
ラシム敗殘ノ敵主力ハ「ウロ」谷ヲ經「アルグン」河ヲ越ヘ
テ支那領ニ走り其一部ハ南方ニ遁入セリ
此戦闘ニ於テ東部支援隊ノ陣地前ニ遺棄シタル敵ノ死
體六百ヲ超ヘ我軍ハ山砲二門輜重車三百ヲ鹵獲シ茲ニ
全ク敵ノ主力ヲ破碎セリ我損害未タ明ナラサルモ機關銃
一小隊ハ全滅ノ悲運ニ會シ其一銃ハ紛碎セラレ一銃ハ
之ヲ敵手ニ委スルニ至レリ

0857



ホクタイドスカヤ附近討伐経過要圖

備考
 □ 友軍
 × 交戦箇所
 ■ 敵軍

0858

參一發第九十四號

大正八年十月八日

參謀總長

通報

「オムス」駐劄大使護衛トシテ浦潮派遣軍ヨリ歩兵一小隊ヲ「オムス」ニ派遣ス

0859

割
一
小
隊
派
遣

軍務局



「オムスク」駐劄大使護衛トシテ浦潮派遣軍ヨ
リ歩兵一小隊ヲ「オムスク」ニ派遣ス

通 報

參一發第九十四號 大正八年十月八日
參謀總長

8.10

軍務局

五

參一發第九十五號

大正八年十月十三日

參謀總長

8.10.14
受領

軍務局受

8.10.15

通報

ウエルノエ附近討伐經過ノ概要



ホチカレオ守備隊長歩兵少佐牛島貞吉ハウエルノエ附近ニ有ナル過激派軍アルヲ知り騎兵第十八聯隊ト協カシ左ノ如ク討伐ヲ實施セリ

一、右縱隊（歩兵一小隊、機關銃一、騎兵一小隊）ハ十月三日

トトルバカタイヲ出發シトミ河ノ強行渡河ヲ敢

行シ敵歩騎兵約五百ヲ擊退シ對岸シロキロフヲ占領

セシモ優勢ナル敵ノ包圍ヲ受ケタルヲ以テ決戦ヲ避

ケトルバカタイニ歸還セリ四日ホチカレオヨリ大尉

吉田常次ノ指揮スル歩兵半小隊ヲ之ニ増加シ五日同

0861

隊ハ「ジョー」ルナ方面ニ前進セシモ其後ノ情况詳カ
ナラス

二、左綴隊（歩兵一小隊、機関銃一）ハ三日バルノゴワ
ヲ出發シ「ウクライナ」附近ヲ占領セル約百八十ノ敵ヲ
攻撃シ交戦約一時間ノ後之ヲ「ウエル」ノエ方向ニ撃退
セリ敵ノ遺棄セル死体六ニシテ我損害馬ニナリ而シ
テ同隊ハ午後三時「ウエル」ノエニ達シ中央綴隊ト合シ

該地ニ宿營セリ

三、中央綴隊（少佐牛島貞吉ノ指揮スル歩兵ニ中隊、機
關銃四、特種砲二門）及騎兵聯隊ハ三日「ホチカレ」オ
ヲ出發シ「ドム」ニナキ附近ニ於テ約三百ノ敵ト衝突シ
交戦約一時間ノ後之ヲ北方ニ撃退セリ我損害ハ戦死
卒二、負傷卒五、馬十一ナリ

同隊ハ三日ウエルノエニ達シ左縱隊ヲ合シ四日カニ
 ナニ宿營シ五日午前七時十五分ゴリック附近ニ於テ
 約千五六百（内武裝セサル者約七八百）ノ敵陣地ヲ
 攻撃シ交戦十三時間ノ後之ヲ東方森林ニ擊退セリ爾
 後討伐隊ハ敵ヲ追撃スルノ不利ナルヲ認メ同夜兵力
 ヲ集結シテ歸途ニ就キ六日夜半バルノゴワニ歸還セ
 リ

此戦闘ニ於テル敵ノ損害ハ約三百ニシテ我損害ハ戦
 死歩兵大尉原作藏、同鈴木盛、騎兵准尉近藤善平、
 歩兵下士以下四、騎兵下士以下二十五、負傷歩兵少
 尉遠藤典邦、歩兵下士以下十九、騎兵下士以下九ナ
 リ

參一發第九十六號

大正八年十月三十日

參謀總長

8.10.27

後貝加爾州方面ノ情況

通報

モゴーチヤ守備隊ノ情況

モゴーチヤ守備隊(大尉和田正敏ノ指揮タル歩兵一中

隊ヲ(モゴトス)ハ九月中旬以來十數倍ノ過激派軍ノ包

圍ヲ受ケ九月二十一日鐵道電線ノ切斷セラルルヤ外部

ノ連絡全ク絶ユルニ至レリ茲ニ於テ守備隊長ハ部下

ヲ勵シテ其志氣ノ作興ニ努メ斥候、列車砲並密偵ノ

遣等所有手段ヲ講シテ連絡ヲ圖リシモ常ニ過激派軍

ノ所トナリテ其目的ヲ達セス加之九月末ニ至ル

食缺乏ノ窮狀ニ陥リシモ屈ヤスレテ日夜間斷ナキ

軍務局

第一課

航空部
潜水部



0865

敵ノ奇襲ヲ警戒シ又善ク住民ヲ監視シテ人心ノ動搖ヲ
防遏セリ

過激派軍ハ守備隊ノ窮狀ヲ看破シ十月六日勸降狀ヲ送

附シ續イテ七日約五百ヲ以テ我ヲ夜襲セシモ守備隊長

以下奮戦健闘遂ニ之ヲ撃退シ九日友軍ノ來援ニ依リ約

三週間ノ重圍ヨリ脱出スルコトヲ得タリ此間僅カニ三

名ノ戦死者ヲ出セルニ過キス

二、ウソジンスコエ附近臨時測圖部

測量師以下遭難ノ情況

一、組長測量師河野亮之介以下五名ハウソジンスコエ、

ポセリエニ位置シ竹下、栗田兩測量手以下七名ハセメ

ノフスキーニ又多胡、川上兩測量手以下七名ハチダニ

位置シ各作業ニ従事中セメノフスキーニ在リシ七名ハ十

月十三日突如過激派ノ來襲ヲ受ケ惡戰苦闘ノ後之ヲ
擊退シ十七日オロワシヤニ歸還セリ我損害ハ戰死票

田測量手以下三、負傷竹下測量手以下三ナリ

一、組長等ノ消息ハ全ク不明ナリ

二、オロワシヤニ在リシモハ十三日村民ヨリ過激派來襲ノ報

ニ接シ附近高地ニ一日間避難ノ上十五日無事ナルヲ

メクニ歸還セリ

三、資源調査第一班長三浦大尉以下

遭難ノ情況

資源調査第一班ハ長騎兵大尉三浦金藏以下將校二、通

譯一、護衛兵八ハ十月十九日オロワシヤ東北方地區ニ

於テ過激派約百五十名ノ攻撃ヲ受ケタル日我將校以下

奮闘ニ依リ辛クテ重圍ノ脱シオロワシヤニ歸還セリ我

損害ハ戦死歩兵少尉勝谷静雄
護衛兵五、負傷大尉三浦
全藏行衛不明通譯一十男

0868

事務局

セリ

第一課
第二課

第三師團八十月三十日ヲ以テ全部其衛戍地ニ歸著



通報

大正

第一發第九十七號

大正八年十一月五日

參謀總長

0870

事務局
8.11.7.

軍務局



備
参

参一發第九十八號

歩兵第十五旅團及工兵第十三大隊ハ十一月六日ヲ以テ
 全部露領ニ到着シ浦潮派遣軍司令官ノ隸下ニシテ
 右ニ依リ歩兵第九聯隊ハ原所屬ニ復歸スハキモ其輸送
 開始ノ時機ハ西伯利ノ情況ニ應シ浦潮派遣軍司令官之
 ヲ決定ス

通



報

大正八年十月十三日

参謀總長



8.11.14
官印受領

軍務局受

8.11.15

0871

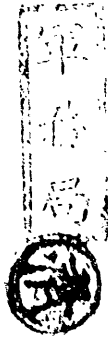
參一發第九十九號

大正八年十一月二十二日

參謀總長

通報

臨時第一、第二測圖部ハ内地ニ歸還ヲ命セラレ十二月下旬頃其滿成地ニ歸著ノ豫定ナリ



受 8.11.24

0872

西宮第 四六六

第三師團各部隊復員ノ件通條

大正八年十月十九日 陸軍大臣田中義一

海軍大臣加藤友三郎殿

第三師團各部隊ハ過般歸還ヲ命セラレ十月四日ヨリ

十月四日ニ亘ル間ニ於テ内地ニ歸著ノ上復員致候也

軍務局

各班長



軍務局受 8.11.20

0873

為秘

參一發第百號



軍務局

陸ノ慶賀ナリ

第五、第十四師團ノ補充員トシテ約六百五十名ヲ西伯
利ニ派遣スルコトナリ該補充員ハ十一月十一日浦潮

報

大正八年十二月三日

參謀總長

軍務局受

0874

8.12. 4

復第八號

臨時第一、第二測圖部ノ復員ヲ令セラル

大正八年十二月二十三日午後二時

陸軍大臣 田中義一

海軍大臣 加藤友三郎 殿

第一課
第二課
小出

陸軍

0875

0877

西伯利



參謀總長
發第百號

通報

西伯利方面ノ現情ニ鑑ミ浦潮派遣軍ヲシテ一部
隊ヲイルクーツク市附近ニ派遣シ帝國官民ノ
保護ニ任セシメラル

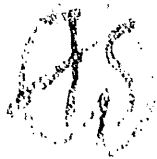
大正八年十二月二十九日

參謀總長

0876

一 西伯利亞
二 保護
0877

西伯利亞



報

發第百號

通 報

西伯利亞方面ノ現情ニ鑑ミ浦潮派遣軍ヲシテ一部
隊ヲイルクーツク市附近ニ派遣シ帝國官民ノ
保護ニ任セシメラル

大正八年十二月二十九日

參謀總長